

水道料金設定の考え方

水道事業は、市民生活に欠かせない水を供給するため、独立した公営企業として運営されています。その主な収入源は、お客さまからの水道料金であり、維持管理費や老朽施設の更新費用などに使われています。

水道料金は、以下の原則や考え方に基づいて、水道を使用される皆さまにご負担いただいています。

独立採算制の原則

公営企業で必要となる費用は、その経営によって得られる収入で賄わなければならない、税金などに頼らずに運営していくことが求められます。

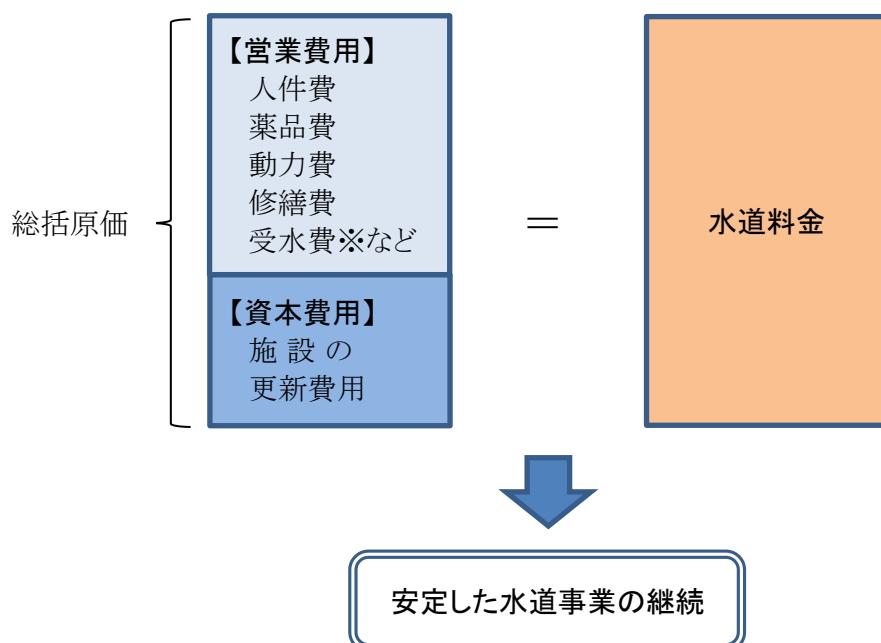
受益者負担の原則

事業によって特定の人利益を受ける場合、受ける利益の度合いに応じて、利用者に費用の負担をしていただくものです。

基本的な考え方

水道事業を安定して継続していくためには、水道管を維持補修するとともに、老朽施設の更新をしていかなければなりません。これら、水道事業を運営するために必要な費用全体を「総括原価」といいます。

この総括原価を水道料金で賄うことができるように、水道料金の水準を設定しています。もちろん、料金水準をできるだけ抑えるために、費用削減に取り組む必要があると考えています。



※受水費：大阪広域水道企業団からの水の購入費用